

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 29 年 1 月 26 日 (2017.1.26)

【公開番号】特開 2016-117908 (P2016-117908A)

【公開日】平成 28 年 6 月 30 日 (2016.6.30)

【年通号数】公開・登録公報 2016-039

【出願番号】特願 2016-9977 (P2016-9977)

【国際特許分類】

C 08 J 9/12 (2006.01)

B 32 B 5/20 (2006.01)

B 32 B 27/00 (2006.01)

B 32 B 27/36 (2006.01)

C 09 K 3/10 (2006.01)

【F I】

C 08 J 9/12 C F D

B 32 B 5/20

B 32 B 27/00 M

B 32 B 27/36

C 09 K 3/10 R

C 09 K 3/10 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 28 年 12 月 12 日 (2016.12.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

樹脂発泡体上に粘着剤層を有するシートであって、

前記樹脂発泡体は下記で定義される応力保持率が 70% 以上である、シート。

応力保持率 (%) = (60 秒後の圧縮応力) / (0 秒後の圧縮応力) × 100

0 秒後圧縮応力及び 60 秒後圧縮応力：23 雰囲気下、厚みが 1.0 mm であるシート状の樹脂発泡体を、厚み方向に、初期厚みに対して 20% の厚みとなるように圧縮し、圧縮状態を保持する。圧縮直後の圧縮応力を「0 秒後の圧縮応力」とし、圧縮状態を保持してから 60 秒後の圧縮応力を「60 秒後の圧縮応力」とする。

【請求項 2】

前記樹脂発泡体における平均セル径が 10 ~ 150 μm である、請求項 1 記載のシート。

【請求項 3】

前記樹脂発泡体における最大セル径が 200 μm 未満である、請求項 1 又は 2 記載のシート。

【請求項 4】

前記樹脂発泡体は、0.05 ~ 5.0 mm の厚さを有する、請求項 1 ~ 3 の何れか 1 項に記載のシート。

【請求項 5】

前記樹脂発泡体は下記で定義される 50% 圧縮時の反発力が 0.1 ~ 4.0 N / cm² である、請求項 1 ~ 4 の何れか 1 項に記載のシート。

50%圧縮時の反発力：23 の雰囲気下、シート状の樹脂発泡体を、厚み方向に、初期厚みに対して50%の厚みになるように圧縮した際の対反発荷重

【請求項6】

前記樹脂発泡体は、熱可塑性樹脂を含む樹脂組成物の発泡体である、請求項1～5の何れか1項に記載のシート。

【請求項7】

前記熱可塑性樹脂の230におけるメルトフローレートが1.5～4.0g/10minである、請求項6記載のシート。

【請求項8】

前記樹脂発泡体における前記熱可塑性樹脂の含有割合は70重量%以上である、請求項6又は7記載のシート。

【請求項9】

前記粘着剤層は、2～100μmの厚さを有する、請求項1～8の何れか1項に記載のシート。

【請求項10】

前記粘着剤層がフィルム層を介して前記樹脂発泡体上に形成されている、請求項1～9の何れか1項に記載のシート。

【請求項11】

前記粘着剤層は、アクリル系粘着剤および/またはゴム系粘着剤を含む、請求項1～10の何れか1項に記載のシート。